

## 朝河貫一、今に生きる百年を超える愛国の警告

世界の歴史に残る、100年に一度の規模の地震、さらに1000年に一度の大津波が東北三県の沿岸を襲った東日本大震災、そして東京電力の福島第一原発の重大事故。この大災害については数多くの調査、検証が国内外で行われた。なかでも原子力エネルギーの世界史に残る福島原発事故は、これからも数十年、いや世紀を超えて放射能と汚染水、環境、健康、またデブリ処理<sup>※1</sup>、安全対策など世界の注目だ。日本には50基を、世界全体で400基を超える原子力発電所のすべてに寿命があり、使用済み燃料の処理、貯蔵は世界的な課題である。福島のような事故はまたどこかで起こるか分からない。世界の注目が福島に集まるのは当然で、事故の教訓を世界と共有する姿勢が大事だ。



政策研究大学院大学名誉教授

### 黒川 清氏

Profile/医学博士。1969~84年在米、UCLA内科教授、東京大学内科教授、東海大学医学部長、日本学術会議会長、内閣特別顧問、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会委員長などを歴任。現在は、政策研究大学院大学・東京大学名誉教授、日本医療政策機構代表理事を務める。

www.kiyoshikurokawa.com

この重大事故に対し「国権の最高機関」の国会は、事故後9カ月を経て「憲政史上初めて」となる「独立調査委員会」を発足させ、私が委員長の名を受け、歴史的調査が始まった。国内外の注目のなか委員会・記者会見は全て公開、英語の同時通訳付き、ネットでも公開、報告書は2012年7月5日に国会に提出され、今でも記録は「国会事故調ホームページ」<sup>※2</sup>に日英語で公開されている。

調査が進むにつれ、事故の根幹には日本の政産官学メディアを巻き込んだ、近代民主国家にあるまじき「エリートの犯罪」「政府の失敗」ともいえるべき「規制の虜」状態があることが明らかになった。

委員長として報告書のまとめに集中する一方で、家族、生活、人生を失ってしまった多くの人たちに対して、そして福島の人たち、日本国民、世界の人たちへ、委員会委員、100名余のスタッフは、何を思い、考え、その精神をどう伝えるか、これは委員会では相談できない、私だけの責任だと認識していた。

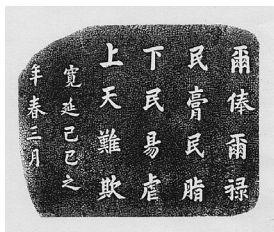
頭に浮かんだのが朝河貫一先生(1873-1948)だ。二本松市の出身で、英辞書に学び、英語を修め、ダートマス大卒、イエール大博士、日本人初のイエール大教授となった偉人だ。彼の唯一の日本語著書「日本の禍機」での日本のエリート達への「心からの愛国の忠告」が、福島原発事故で見えた今の日本のエリートの大きな過ちに対する私たちの思いそのままだったことに深い感慨を抱いた。驚いたことに国会事故調の調査統括をお願いした宇田左近さんも二本松藩士のお家柄、また報告書が報道されるとすぐに電話をいただいた現セブン銀行特別顧問安斎隆さんも二本松市出身だったのだ。

安斎さんのお世話で国会事故調査と朝河貫一をテーマとした報告会を、二本松市で2013年8月28日開催<sup>※3</sup>、二本松市民会館にバスを連れ、予想を超える多くの方にお越しいただいた。1,200席ある大きなホールは満杯、急遽別室をしつらえテレビで中継もした。宇田さんが国会事故調査委員会の報告、私は、朝河貫一博士が100年以上前に日本へ警鐘を鳴らしていた思いと、私の思いが同じであることを紹介した。翌日は市庁舎、大隣寺(旧二本松藩主丹羽家菩提寺)、朝河博士ゆかりの地などを訪ねた。

二本松市は朝河博士の学んだダートマス大とイエール大に、中学生を毎年、短期視察研修に派遣している、とてもうれしい。このような若者が、どんな思いを持ち、自分の道を進むのか、とても楽しみなのだ。

今年の春、二本松市長よりご招待いただき、お花見を第18代藩主の丹羽ご夫妻、そして二本松市名誉市民橋本堅太郎さん(二本松城前にある二本松落城に命を落とした二本松少年隊の群像の作者)ご夫妻と一緒する機会<sup>※4</sup>を、また、最近では二本松未来戦略会議に参加する機会をいただいている。

明治150年が話題となっている今年ではあるが、東北では痛ましい戊辰戦争の記憶があり、維新後の東北人の舐めた辛酸の歴史を知る人がまだ多くいることを忘れるわけにはいかない。開国からまだ150年、つらい記憶はそんなに容易には消えないことは歴史の教えることろだ。



—旧二本松藩戒石銘—

丹羽氏・二本松藩十萬七百石の大いなる遺産は、五代藩主高寛公が儒臣・岩井田昨非の進言により、藩士の戒め。を目的に藩庁門前の自然石に刻ませた戒石銘碑、である。

【意味】「お前(武士)の俸給は、人民達があぶらして働いたたまものである。お前は人民に感謝し、いたわらねばならない。この気持ちを忘れて、弱い人達を虐げたりすると、きっと天罰があろうぞ。」

※1 デブリ処理：原子炉の事故で炉心が過熱し、溶融した核燃料や被覆管および原子炉構造物などが冷えて固まったもの。

※2 参照：国会事故調 HP <<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3856371/naici.go.jp/en/>>

※3 参照：黒川清氏ブログ <<https://bit.ly/2O4ddck>>

※4 参照：黒川清氏 Facebook <<https://bit.ly/2zqcmKB>>